



駟も舌に及ばず

「失言は取り返しがつかない」という意味の故事成語です。

駟（し）は四頭立ての馬車のことで、舌（ぜつ）はした、つまり口から発した言葉のことです。一度口から発してしまった言葉は、四頭立ての馬車で追いかけても追いつくことはできず、取り返しのつかないことになるという意味で、言葉は軽々しく発するものではないと戒めるものです。

同意語： 「駟馬も追う能わず」

類語： 「口から出れば世間」

古くから、人間社会において、言葉が相手に与える影響は大きいものだったことでしょう。

この故事成語のもとになった話は論語の中にあり、「ある国の役人が『君子は実質が一番で、身を飾る必要なんてない』と言ったことに対して反論しようと考えた子貢（孔子の弟子）が、まずその役人に対して『駟も舌に及ばず』と言い、一度発言してしまった意見は取り消せないということを指摘してから、その意見に対する反論を始めた」というものです。

この故事では、発言の内容やその影響についてではなく、相手に対して「確かに言ったな」「発言には責任を持てよ」「自分の言ったことを忘れるなよ」といった挑戦的な意味で使われていますが、そこから「一度言ったことは取り消せない」という意味に解釈され、前述のように、軽率な発言を戒める意味で使われるようになったのでしょう。私たちの身近なことで考えても、秘密を「ここだけの話」と打ち明けた結果、あっという間に周囲に広がってしまったり、自分がいないところで囁かれた誹謗中傷的な発言が、巡り巡って自分の耳に入ってきたり、等々、日常的な経験からも頷けるものです。

「軽々しく言葉を口にする」という気をつけなければなりません。最近では、SNS 上で、「軽々しく書き込む」ことによる問題が多発しています。書き込むとは言っても、多くの人に向かって発言することと変わらず、しかも、不特定多数の人々に対する場合は、発言者の匿名性の高さや瞬時に拡散するという環境が問題を深刻化させていると感じています。さらに、LINEやFacebook等、ネット上の情報交換・共有サービスによる、あまりにも手軽な閉鎖的集団形成や、そこで交わされる会話による情報の歪んだ伝達や誇大化、客観性を欠く攻撃的な雰囲気や扇動等の弊害も顕在化しています。

郡山小学校（仙台市教育委員会）では、情報に関する授業の中で「情報モラル」教育にも力を入れています。これは、情報化社会に求められる情報発信の心構えや受信時の注意点など、人の心を大切にしながら望ましい情報との関わり方を学ぶもので、プライバシー保護、知的財産権、情報やコンピュータネットワークの不正利用防止、情報セキュリティ、有害情報、デジタルデバイド等、情報に関する倫理的問題を対象領域としています。特に、インターネットの利用によって、自らを危険に晒したり他者を害したりしないようにするためには重要であり、パソコン等の機器の操作方法やソフトウェアの活用技術等、技能面を習得することと並行して、指導に力を入れなければなりません。

子供たちは、これから、さらに高度に進化した情報化社会の中で生きていかなければなりません。そんな中でも、自分自身をしっかりと見つめ、人間らしい優しさや思いやりを忘れず、正しい判断力を持って、心豊かな未来を築いていってほしいと願っています。

..... 切り取り線

学校への御意見・御要望・校長に知らせたいこと など

2022年2月10日（ ）年（ ）組 児童氏名